

大津島データ 155世帯
人口 209人 男 84人 女 125人
高齢化率 80.3%
(令和3年9月30日現在)

潮流

題字：末兼南子さん イラスト：大津美子さん



行事報告



きれいになりました

8月28日(土)、大津島小中学校グラウンドの草刈りが行われました。当日は、天候も良く、地区コミュニティ、若潮の会等の参加があり、草刈り班と収集班に分かれて作業しました。おかげで無事終了しました。参加者の皆さん、暑い中、本当にお疲れ様でした。

文川原田 和保

▼島のサポーター「しまさぽ」による草刈後の状況です。



モニュメント「未来の風」

若潮の会通信 No.41

文川赤瀬 宏美



今年度から若潮の会に夫が瀬戸浜出身という事で入会させていただきました。私自身は市内の山間部出身で、海とはあまり縁のない生活だったため、いつも無口な夫が昔話を楽しそうに話す大津島に行くとなると一週間前からワクワクするくらいに、私にとって魅力的な島です。目を閉じれば波の音、港に着けば島の方の穏やかで活気のある声、人懐っこい猫たち。若潮の会の皆さんは親切で楽しい人ばかりで、これまで参加した行事はどれもこれも充実した時間を過ごさせていただきました。今回、入会のきっかけの一つに、戦争遺構のある大津島のお役に立てればという気持ちがありました。私の祖父が日中戦争に行っていたことで、子供のころから戦争の話をよく聞いていました。戦争に関わる場所にも連れて行ってもらうことが多く、小学生のときに、島に訪れたことがありました。当時の発着場が大事に守られ、そこへ行くとまるで時間が止まっているように感じました。私にとって、大津島に関わることで少しでも過去の歴史を守る事になればいいと考えています。

馬島漁港岸壁・海底清掃

文川大津島支所 原田 和保



10月16日(土)馬島漁港岸壁・海底清掃におよそ90名の参加がありました。当日は雨が心配されましたが、やや汗ばむ程度の作業日和となりました。ごみを拾う中で、発泡スチロール等大きなごみが目立ちました。軽トラやコンテナにごみを積み込む際には、人数が多かったおかげで作業がスムーズに進みました。天浦・馬島・柳浦地区の自治会・若潮の会・ダイバーの皆さん・徳山大学・釣り団体協議会等の皆さん、大変お疲れ様でした。



徳山湾見聞録

29 謎の爆沈「戦艦河内」と「回天」最初の戦没者

文川大津島巡航 三崎 英和

海図を見るとWkと記されている場所があります。これは船が沈没していることを示す記号なのですが、徳山湾内に1か所、その記号が印してある場所があります。その位置は出光興産の大浦油槽所の沖合、およそ15kmの場所。そこに沈んでいる船の名前は戦艦「河内」。大正7年7月に、その場所で謎の爆発を起こし、乗組員およそ100人のうち、621人が死亡したとされています。その地点の水深は12m程度であったため、使用可能な機材は引き上げられたようですが、完全には回収されなかったようです。実はその場所は、巡航船からも確認ができます。なぜ、確認ができるかというと、緑と赤色の2種類の灯浮標(照明機能を備えたブイ)が、付近の海上に設置してあるからです。さらにその場所は、人間魚雷「回天」を創案し、訓練中に着

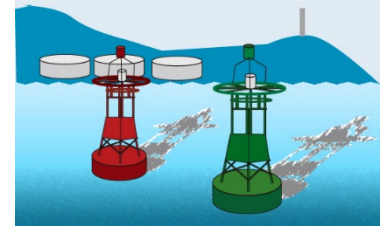


イラスト 三崎 英和

磊ノ島創設3周年

「芋汁ふるまい会」を開催します

令和3年11月21日(日)、大津島ふれあいセンターにて、「芋汁ふるまい会」を開催します。一般社団法人磊ノ島は、おかげさまで創設3周年を迎えることになりました。その記念イベントとして、日頃からお世話になっている島の皆様へ、芋汁を無料でご提供させていただきます。当日は若潮の会の皆さんによる、さつまいもの販売も予定しております。皆様お誘い合わせの上、どうぞご参加下さい。詳しい内容については、また改めてポスターやチラシでご報告いたします。お酒やおにぎりの販売もあります！
どうぞよろしくお願ひします。
文川一般社団法人磊ノ島 渡邊 あゆ子



★不慣れな畑づくり

シリーズ番外編

文川内山剛

スズメバチ、雀蜂、胡蜂(中国語)

8月のある朝。暑くなる前にと思い、7時過ぎから畑の草刈りを始めました。暫くして突然、お尻の辺りに鈍い痛みを感じます。「痛っ。」と思いついて見ると割と大きめの蜂が数匹飛び回っていて、即座にその場を離れようとしています。ただその瞬間にもまた脚の辺りを2か所刺されてしまい、命からがら逃げ出しました。



決死の覚悟で道具を回収し、家で暫く寝ようとするも、痛みがますます酷くなっている感覚。結果、14時便で前回マダニと思われる虫に刺された時にお世話になった広田皮膚科さんを訪ね、注射を打ってもらうと急激に痛みが緩和されました。

今回初めてスズメバチに刺されましたが、次に刺される時はアナフィラキシーショックに要注意です。そのアナフィラキシーショックも種類が色々あり、蜂は200人に1人が発症する恐れがあるようです。ん？200人。どこかでよく耳にする数字ですね。そうです、大津島の島民数に近似値なのです。今回僕は幸いにも無事でしたが、今後皆さんも蜂刺されには十分ご注意ください。

その後、肝心のスズメバチは古城隆夫さんのお力で殲滅して頂きました。ちなみに今ではトンボが飛んでくるだけでも緊張する自分です。

お世話になりました

半年間、大変お世話になりました。デイサービス以外の方となかなかお会いする機会がありませんでしたが、いつも笑顔で声をかけていただき暖かみを感じて毎日をご過ごすことができました。大津島を離れることは寂しい限りですが、新たな環境で頑張ります。皆様もお体にお気をつけてお過ごし下さい。本当にありがとうございました。

大津島老人デイサービスセンター前勤務
小柳 亜美

これからよろしくお預けします



10月1日から大津島デイサービスで勤務になりました浜津慎太郎と申します。ゆっくり穏やかに働こうと思っています。いつでも「お試し利用」を受け付けています。お気軽に申込み下さい。

大津島老人デイサービスセンター
浜津 慎太郎

令和3年度 大津島ポテトマラソン

※令和3年12月に開催を予定しておりました大津島ポテトマラソンは、新型コロナウイルス感染拡大の防止に伴い、中止させて頂くこととなりました。

お知らせ

【次回潮流発行予定日】
1月1日 第283号

善意銀行へのご寄付ありがとうございます

- ▼預託者 河野 保男 様
父 河野 勉 様の香典返しとして
金5万円(市社協1万円、大津島社協4万円)
- ▼預託者 河野 保男 様
母 河野 テツ子 様の香典返しとして
金5万円(市社協1万円、大津島社協4万円)
- ▼預託者 匿名 金1万円(大津島社協)

移動図書館 やまびこ号ジュニア

11月16日(火)、12月21日(火)
馬島11:30~ 刈尾12:20~

【11月~1月の主な島の行事予定】

11月14日(日) 回天搭載戦没潜水艦乗員追悼式
11月21日(日)「芋汁ふるまい会」開催

【編集後記】

全国の緊急事態宣言が解除されて1ヵ月が経とうとしています。元の生活ってどんな感じだったのかなとつくづく思います。また、次の第6波が来ないことを祈るばかりです。

文責：原田 和保

知っちょるかね

おんぶのあたたかさ



文=松本 千恵子

「おばさん、赤ちゃんをおわせてえね」と隣のおネエさんが今日も訪ねてくる。おネエさんと言っても私より六七才上の小学校高学年。赤ちゃんとは、私より三才下の妹だ。「あんまり遠くに行きさんなよ」と言いつつ母は妹をおわせ、おい半纏を着せる。「うん、この辺で遊ぶけん」と答えるおネエさんを迎えにきているのは、やはりよその赤ちゃんをおんぶした同級生だ。こうした赤ちゃんをおんぶのが好きな子は、おしなべて子守りが上手で、赤ちゃんは、いつもならお腹が空いて泣いている時間になっても、その背中でスヤスヤ眠っていたものだ。「起すのが惜しいのう」とか言いつつ、もう少しおネエさんに預けられたりする。その間に親は一つでも用事を済ませてしまおうと寸暇を惜しんで働く。私には、一つ違いの弟がいて、母はその子に掛かりきりだった。三才で脳性マヒになった弟は寝たきりで、何時も暗い座敷の布団に居た。

忙しく立ち働く母は、時に私に弟をおわせた。寝たきりの弟は身体が突っ張っていて、私がおうと足の先が下に

届きそうだった。弟の身体はいつも冷たかった。おんぶしている内に温かくなつたけれど、私の背中で眠る事は無かった。きつと私が弟を大嫌いなことを分かっていったんだと思う。何も分かってなかった私は、母が弟ばかりにかまけているのをヤキモチを妬き、母にも悪態を吐いていた。そんな時、母は何も言わず私の背から弟を下ろして、自分の背中にくりつけた。その度に私はホッとしながら、喉の奥の方に硬い冷たい塊が在ることに気づいていた。

時は過ぎ、弟はとうとう亡くなり、私は親になった。私の子供達を母はどれほどおんぶしてくれたことか。しかも母の背では子供達は本当によく寝た。母の背中の温かさの中で、頬を紅く染めて眠る子供の幸せそうな顔を見て、突っ張った身体を思い出す。母もあんなも、もっともっとおんぶしていたら良かっただろうにね。また時が過ぎ、母は弟の方へ旅立った。今は一人して、温かいおんぶをしているかなあ。

③ まだまだ暑いですね。

みなさん、こんにちは、この原稿を書いている今は、まだ暑い毎日がつづいていますが、皆様が読まれる頃は涼しくなっているでしょうか？

最近、朝通勤の船の中から外を眺めると、波間に白いカモメがゆらゆらと揺れています。そこで、カモメについて調べてみました。私たちが目で見ているカモメは、正確にはカモメでなく仲間のウミネコのようなのです。カモメは、冬になると越冬のために日本にやってくる渡り鳥と書いてあります。1年を通して見ていたカモメと違っていた鳥はウミネコだったようです。見分け方は、くちばしと、尾羽で見ると黄色一色で、ウミネコは黄色いくちばしの先端に黒帯と赤班があるそうです。飛んでいるときに尾羽を見るとウミネコには黒い帯があって、カモメには尾羽には黒い帯が無いそうです。そこで飛んでい

る姿を見ると、くちばしの先端が黒く、尾羽に黒い帯を見つけたことができます。おまけに1年中見る事ができ、ウミネコをカモメと誤解してたことが分かりました。そういえば、大津島には、陸には本物のネコが港の周りで出迎えてくれます。海では、波止場でウミネコが出迎えてくれ、ネコに馴染みがある島ですね。

ところで、私は、休みの日は、長田海岸を散歩します。その時に堤防の上だったり、砂浜だったり、岸から離れた海上に並んでいるウミネコたちを見ます。目の前に見えるウミネコたちは、私が通勤途中に船で見たウミネコと同じなのかなとか思いながら、歩きます。今日は何かいいことあるかな？と願いながら。



文=回天記念館 佐伯 孝洋